

令和6年度

授業改善推進プラン

今年度も昨年度作成した「授業改善推進プラン」に基づき、学力向上に向けた取り組みを推進してまいりました。

コロナウイルス感染防止対策が少しずつ落ち着き、以前から行っていたグループ活動や話し合い活動、音楽・家庭科・体育等の実技を行い始めました。また、今年度も4月に「大田区学習効果測定」を行いました。

2020年度から新学習指導要領が実施されており、評価の観点やその内容の変更から単純に前年度と結果を比較できませんが、その結果を受けて授業改善推進プランを作成しました。昨年度、教育研究推進校として社会科と生活科で研究発表を行いました。学んだことを生かし、さらなる授業改善に取り組んでまいります。

令和6年8月

大田区立大森第四小学校

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校国語科）

1 国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・低学年は、既習の漢字を繰り返し書くことで、習得率が上がった。
- ・6年生の「書くこと」の問題の正答率は、前年度の校内平均正答率を0.6ポイント上回った。毎日短い日記を書かせたり、授業で意見文や提案文を書かせたりするなど、文章を書く機会を設けることにより、書く経験を積み、書くことへの抵抗感を徐々に減らしつつある。
- ・音読の工夫や動作化など様々な方法を取り入れたことにより、文節で区切って読む児童が減り、すらすら読めるようになってきた。
- ・校内研究を通して、話型や聞く姿勢を掲示し、話し合い活動を多く取り入れたことにより、相手意識をもって話したり聞いたりすることができるようになってきた。
- ・図書学習司書や図書館と連携を行うことができ、読書への意欲が高まった。

○課題

- ・正しい助詞や言葉の使い方、正しい文章の書き方を身に付ける。
- ・文章をしっかり読む力を身に付ける。
- ・漢字の継続的な学習が必要である。
- ・正しい書き順が身に付けること。
- ・語彙力を増やしていく。
- ・クラスによってタブレットの活用を図る。

2 国語科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・ひらがな、カタカナ、漢字を正しく身に付ける。 ・はをへを正しく身に付ける。 ・助詞、促音、長音等の書き表し方を身に付ける。 ・作文の句読点の位置、使い方の理解をすることが必要である。 ・漢字の習得率を上げる必要がある。 ・語彙力を増やしていく。	・文章を正しく読み取る力が身に付ける。 ・例文を示し、自分で考えて例文の定型通りに書くことが必要である。 ・自分の経験から話題を考えたり、事柄を選択したりする。	・読み聞かせを話の展開に沿って聞く。 ・読書活動で、自分の発達段階に合った本を選ぶ。 ・言葉への関心を高める。 ・必要感をもたせ、意欲的に学習することが必要である。

改善方針	・タブレットを活用し、筆順や漢字の定着を図る。 ・主語、述語、助詞などの文法を繰り返し指導する。 ・朝学習を活用し、既習事項を確認する。	・文章を叙述に即して読んだり、文章構成を意識して読んだりすることができるように指導する。 ・話し手が知らせたいことや、自分が聞きたいことを落とさないように、集中して聞けるように指導する。 ・話型や聞く姿勢については引き続き指導を行い、相手意識をもって話したり聞いたりすることができるようにする。 ・書く活動を増やし、書くことに慣れる機会を作る。また、タブレットを活用し、書く抵抗感を減らしていく。	・必要感をもたせるための課題設定を工夫する。 ・身に付いた力がどこに生かされているかを児童に伝え、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ・学校図書館との連携を行う。
改善策１年	・言葉を聞いて、正しくひらがなで表記できるようにする。 ・文を書くときは、助詞、促音、長音等の書き表し方に気を付けて書くことを繰り返し指導する。 ・語のまとまりや言葉の響きに気を付けて読む等、音読のめあてを示し家庭学習で音読練習を継続する。 ・「は」「を」「へ」を繰り返し練習をする。 ・言葉の意味と使い方を覚え、身近なことを表す語句の量を増やしていく。	・語のまとまりや文の構成を意識し文を書くことができるように、短文作りを取り入れる。 ・一字一字取り上げて、文章から場面や人物の様子を想像して読めるようにする。	・言葉遊びを通して、読むことや書くことへの意欲を高めていく。 ・単元のねらいに沿った読書活動をする。 ・学習計画を示し、学習の見通しをもたせ、学習意欲を高める。

2年	・ノートやワークシートの指導を通して、間違いやすい「は」と「わ」「お」と「を」の使い分けや、促音をしっかり指導する。かたかな表記の言葉の指導を継続する。 ・ノートやドリル、テストで新出漢字の定着を図るとともに、習得した漢字の熟語や文中での使い方を指導し、語彙数を増やしていく。	・自分の考えが明確になるように「はじめ」・「なか」・「おわり」の構成を意識して文章を書かせる。 ・文章の内容の大体を捉えられるように、順序や行動を表す言葉に着目して音読させる。 ・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ話し合い活動の素地を作る。	・司書による読み聞かせや本の紹介を通して、読書に対する意識や態度を高めていく。 ・友達の感想を紹介することで、いろいろな本に興味を抱けるようにする。 ・本の紹介文やおもちゃの作り方など、児童が意欲的に取り組める課題を設定する。
3年	・自分の考えをノートに書いたり、伝え合ったりする活動を意図的に取り入れる。 ・語彙力や知識を増やすために、言葉で表現したり違う言い方を考えたりする活動を通して言語活動の充実を図る。	・文章を正確に読み取るための方法を教えたり、全体で内容の確認をしたりして、読解力を高める。 ・日常的に話の要点を意識して聞くよう指導する。 ・自分の考えを書いた文章を読み返し、正しい表現に直したり、よりよい文章にしたりすることができるように指導する。	・学習した言葉を使って話したり書いたりすることができた場面を価値付け、評価する。 ・自分が興味をもった本を選び、読書活動に親しむことができるように、週1回程度、図書室に行く機会を設ける。
4年	・漢字の小テストを行い、繰り返し継続して指導する。 ・語彙力や知識を増やすために、図書の時間を確保し、繰り返し言語活動の充実を図る。	・文章を正確に読み取るための方法を指導し、全体で内容の確認をしたりして読み取る学習を行う。 ・自分の考えを書いた文章を読み返し、正しい表現に直したり、より良い文章にしたりすることができるように指導する。	・より良い表現や文章を学級全体で紹介し、表現力を伸ばす。 ・自分が興味をもった本を選び、読書活動に親しむことができるように、週1回程度、図書室に行く機会を設ける。
5年	・漢字学習は、漢字の書き方だけではなく、使い方についても重点的に指導し、文の中で使えるようにする。 ・語彙を増やし、言葉の使い方に対する感覚を意識して語句を使えるように指導する。	・自分の考えが伝わるような文章の書き方を具体的に指導する。 ・事実と感想、意見とを区別して書く方法を具体的に指導する。 ・意見文や感想文を友達と共有させることで、考えを広げるようにする。	・本の紹介や読み聞かせをしたり、読書の良さを定期的に伝えたりすることで、すすんで読書できるようにする。

6年	- 漢字テストを活用し、合格点を決めて取り組む。間違えた問題の直しをさせ、知識を確実なものにする。漢字の復習テストを定期的に行い、定着を図る。 - 意味の分からない言葉は辞書を用いて確認し、語彙を増やす。	- 登場人物の心情の読み取りを丁寧に行う。 - 文章構成を意識して書く課題を定期的に出していく。書く経験を重ねることで、書くことへの抵抗感を減らしていく。	- 日記や意見文など、文章を書く機会を設ける。 - 学校図書館を積極的に利用し読書に親しむ機会を設ける。
----	---	--	---

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校社会科）

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・「工場の仕事」の正答率については、目標値（問題①70.0%、問題②80.0%）と同程度の正答率（問題①66.3%、問題②77.1%）となった。地元の工場を事例地にして学習したため、実感を伴った理解ができた。（4年）
- ・映像資料を活用したり、タブレットで調べ学習をしたり、見学等の体験活動を充実させたりすることで、学習活動に意欲的に取り組めた。（3年、4年、5年）
- ・基礎問題の校内平均正答率（55.0%）が、目標値（平均で 67.5%）を下回ってはいるものの、前年度の校内平均正答率（50.9%）を上回った。日々の授業の中で既習事項を振り返り、基礎知識の定着に努めた成果である。（6年）

○課題

- ・地図記号や八方位など、社会科に関する用語を理解できるようにする必要がある。（3年）
- ・写真や表、文章の資料等から、必要な情報を集められるよう、調べる時間を充実させていく必要がある。（3年）
- ・基本的な知識の定着、資料の読み取り、課題に対する必要な情報収集能力に差が見られ、自分の考えに自信をもてていない児童が多いので、話し合い等を充実させ、自分の考えに自信をもてるようにする。（4年）
- ・ほとんどの項目で目標値を下回っており、知識の定着が不十分である。そのため、反復学習を通して、定着を図る必要がある。（4～6年）
- ・資料をもとに考えたことを記述する問題の正答率が一桁（目標値は 40.0%、本校は 8.0%）であった。学習して分かったことや考えたことをまとめる活動を、日常的に行い、自分の考えを表現できるようにする必要がある。（6年）

2 社会科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・地図記号や八方位、都道府県の名前と位置など、社会科に関する基本的な用語を理解できていない様子が見られる。 ・写真や表から情報を読み取る力に課題が見られる。	・資料を読み取って分かったことを自分の生活に照らし合わせて考えることに課題が見られる。 ・自分の考えや調べた結果を相手に伝えることに課題が見られる。	・社会科に対する得意、苦手意識に差が見られる。 ・授業の中で学習したことを自分の生活とつなげて考えることに課題が見られる。

改善方針	・年度当初から、繰り返し指導をしていく。方位と地図記号については３年生、八方位と都道府県については４年生での定着を目指したい。 ・学習のめあてに対応して調べたり、自分の予想を確かめるために調べたりと、目的をもって資料を読み取る活動を設定する。その際、具体的な読み取り方を全体で確認していく。	・社会的事象に対して、「なぜなのか？」と理由を考える活動を行うことで、関連づけて考えられるようにする。 ・まとめや振り返りを自分の言葉で書く活動を意図的に設定し、関連づけて考え、理解を深めることができるようにする。 ・話し合い活動を意図的に設定し、自分とは異なる考えに触れることを通して、考えが深められるようにする。	・単元導入時に提示する資料を工夫したり、調べるための問を立てたりして、興味関心を高める。資料の工夫として、ＩＣＴによる資料配付や資料提示を積極的に取り入れていく。 ・資料に出てくる言葉を分かりやすくしたり、教えたりして、内容が分かるようにしていく。 ・自分の生活とつなげて考えている児童を価値付ける。単元の最後の発問を工夫する。
改善策 ３年	・用語を使って説明したり自分の考えを書かせたりする中で用語の理解と定着を図る。 ・写真や表から情報を読み取る時のポイントを丁寧に指導する。	・資料から読み取ったことを基に、問題について自分の考えをもたせる。 ・自分の考えを伝え合う機会を設けるなど、問題について話し合う活動を取り入れる。	・教科書の資料だけではなく、教員が教材を工夫して提示する。 ・自分の生活と照らし合わせて考えられるような発問をする。
４年	・国語と関連させ、定期的に「都道府県テスト」をする。 ・タブレットのドリルパークを活用する。 ・興味、関心をもつような問題を投げかける。	・資料から読み取ったことを基に、問題について自分の考えをもたせる。 ・自分の考えを伝え合う機会を設けるなど、問題について話し合う活動を取り入れる。	・教科書の資料だけではなく、教員がICT教材を工夫して提示する。 ・自分の生活と照らし合わせて考えられるような発問をする。 ・タブレットを活用した学習を行う。
５年	・地図や資料の見方、情報の集め方を丁寧に指導する。 ・社会科における大事な言葉を丁寧に押さえる。	・比較したり、既存の知識と関連付けたりして、自分の考えをもたせるようにする。	・自分たちの生活と関連付けて考えさせることで、興味をもたせる。
６年	・資料やグラフの読み取り方、年表の見方を丁寧に指導する。 ・どの資料から分かったことなのかを授業中に確認する。 ・前時の復習をするとともに、授業の要点をまとめ、知識を確実なものにする。	・理由を考え表現する活動に取り組み、分かったことを根拠にして自分の考えがもてるようにする。 ・学習して分かったことや考えたことを言葉でまとめる活動を意図的に設定し、自分の考えを表現できるようにする	・児童にとって身近な教材や、意外性のある教材を提示して、児童の関心や意欲を高める。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校算数科）

1 算数における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・朝学習や家庭学習も使いながら、基本的な計算を繰り返し練習することで、正しく計算することができる児童が増えてきている。簡単な加減乗除の計算など基本的な計算力は身に付き始めている。
- ・少人数の習熟度別の学習を通して、多くの児童が前向きに学習に取り組んでいる。
- ・5年生は、大田区効果測定の結果と比べると校内平均が、「面積」は51.7%から53.1%、「角の大きさ」は75.0%から78.5%と上回っている。
- ・6年生の大田区効果測定の「活用」の問題の正答率が前年度の校内平均率39.0%から41.5%に上昇した。学習の最初に見通しを確認したり、既習事項を使って自分の考えをまとめさせたりするようにした成果だと考える。

○課題

- ・10以上の計算、かけ算九九など基礎となる計算を定着させていくこと。
- ・正確に文章問題を読み取り、立式につなげていく指導を工夫していくこと。
- ・図形についての理解が未熟な児童に対する指導を工夫していくこと。
- ・量感が伴わず、単位換算が不得意な児童が多い。単位についての実感を伴った理解を育っていく。
- ・5年生は大田区効果測定の結果では、全領域において目標値を下回っている。前学年までの既習事項を確実に定着させる必要がある。個の実態を把握し、定着していない内容を個別に補っていくようにする。
- ・6年生では、「分数の計算」の正答率が、目標値を大幅に下回った。問題の内容から「通分」への理解が足りないことが分かった。授業で計算力を高めるために繰り返し計算練習をする場面を設けていく。
- ・「面積」「立体と体積」の正答率が、目標値を大幅に下回った。特に「面積を求める式」「体積を求める式」の理解を図る問題の正答率が目標値の半分以下であった。学習内容が変わると、既習事項を忘れてしまう傾向があるので、定期的に復習する必要がある。

2 算数科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・基本計算の計算精度をあげる。特にかけ算九九の定着を高める。 ・量感のイメージを育てる。	・文章題から演算決定をし、正しく立式することができるようにする。	・授業への参加意識に差がある、児童の意欲を高めていく指導の工夫。

改善方針	・反復学習や振り返り、朝学習の時間で基礎学力の定着を図る。特に基本的な和差計算・かけ算九九の確実な習熟を図る。 ・繰り返し計算練習を繰り返し行い、基礎的計算の定着を図る。 ・未習熟な単元では、学習のポイントを振り返り、再テストを通して習熟する。 ・日常の生活体験に結びつけた学習を通して、量感を掴めるようにする。 ・具体物や具体例を用いて説明したり考えさせたりする。 ・正確に道具を操作して作図をする力を定着させる。 ・大田区効果測定的基础の正当率を区の目標値まで引き上げる。	・具体物を活用して、具体的なイメージをもたせる。 ・問題解決型の学習を積極的に取り入れる。 ・数量の関係を表やグラフを用いて表す活動を取り入れる。 ・既習事項を例示し、いろいろな考え方を検討し、自分の考えがもてるようにする。 ・立式する際には、その理由を考え、筋道立てて書くように指導する。 ・ペアなどで話し合ったり、発表し合ったりする活動を取り入れる。 ・大田区効果測定の利用の正当率を区の目標値に極力近づける。	・学習のめあてや見通しを自分たちでとらえ、進んで取り組めるようにする。 ・楽しみながら数や図形の内容を身に付けさせるなど授業スタイルを見直す。 ・スモールステップで授業を展開していく。 ・授業の導入を工夫し、学習への意欲を育てる。 ・タブレット端末を使って、自分に合った学習を繰り返し行っていく。また、児童が集中して学習できるよう活用していく。 ・生活に根差した状況を用いて課題設定をし、興味関心をもって学習に取り組めるようにする。 ・自分が気になったところや間違えたところを自分で気づき、改善する練習を繰り返す行う。
改善策1年	・ブロック操作や具体物による計算練習に取り組む。 ・10 になる組み合わせ及び計算練習の反復練習に取り組む。	・ブロック操作などの具体物による状況把握を通して、加減の判断に取り組む。 ・和差算の混在した文章問題プリントに繰り返し取り組む。	・授業開始時にめあてを提示し、本時の目標を意識させる。 ・デジタル教科書などの視聴覚教材を使用し、スモールステップで進めていく。
2年	・具体物などを用いて、100 がいくつつ・10 がいくつつという表現方法やかけ算の仕組みなどの理解を深めさせる。 ・適切な計算が用いられる場面を具体的にイメージさせ、繰り返し取り組ませる。	・図や具体物を用いて、ペアやグループで話し合うことで、問題の内容が具体的にイメージできるようにさせる。 ・自分の考えに根拠をもつことができるよう、ペアで話し合う場面を意識的に多く設け、友達の考えと比較したり、再考したりする場面を作る。	・授業開始時に前時の既習を確認し、学習のスタートをそろえる。 ・主体的に楽しみながら個に応じた課題を解決できるように、タブレット端末の使用法や使用場面を工夫する。 ・自分の生活に数理的な処理を生かす場面を作る。

3年	・授業の初めに百マス計算等を行い、九九の定着を図る。 ・授業中に練習問題に必ず取り組み、できていない児童には個別で説明する。 ・理解が不十分な单元には、ポイントを説明し、再テストを行い、計算する力を高める。	・動作化したり、図にして表現させたりして、問題場面を正しくとらえられるようにする。 ・自分の考えをノートに書いたり、友達同士で発表し合ったりする時間を設ける。	・学習の最初に、見通しを児童に出させ、主体的に取り組めるようにする。 ・問題場面を身近な生活体験と結びつけて提示し、実感をもって課題を捉えられるようにする。
4年	・習熟度別の授業展開。 ・单元ごとの補習。 ・スモールステップを意識した計算練習。	・自分の考えをノートやタブレットに書いたり、友達同士で発表し合ったりする時間を設ける。	・授業の見通しをもたせ、主体的に取り組めるようにする。 ・問題場面を身近な生活体験と結び付けて提示し、実感をもって課題を捉えられるようにする。
5年	・C児童については基礎的な問題が確実にできるように丁寧に個別指導する。 ・宿題を活用し、その日に習ったことが確実に定着するようにする。また、ドリルパークを活用していく。	・文章題については、問題の意味に着目するように指導する。何を求めるのか、またどのような計算式になるのかを数直線を用いて考えさせる。	・既習事項を確認し、習ったことを用いて、立式などさせ、問題解決することができることを指導する。
6年	・授業中に練習問題に必ず取り組み、できていない児童には個別で説明する。 ・朝学習等で計算の力を高めるためのプリントに取り組ませ、計算する力を高める。 ・定期的に復習問題に取り組ませ、知識を確実なものにする。	・既習事項を使って自分の考えをまとめたり発表したりすることができるように、説明し合う場面を作り、知識を活用することができるようにする。	・学習の最初に、「何をできるようになったらいいか、何を考えるのか」という見通しを確認し、主体的に取り組めるようにする。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 理科）

1 理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・観察の視点を提示することで、よく観察し記録することができた。
- ・課題発見→予想・仮説→実験（観察）計画→実験（観察）→結果→考察→結論という学習過程を繰り返し指導することで、児童が見通しをもって実験や観察に取り組むことができた。

○課題

- ・学習効果測定結果から全体的に区平均、目標値を上回る結果が得られるよう授業を改善していくことが必要である。
- ・基本的な知識の定着。資料の読み取り、課題に対する必要な情報活用能力を育成することが求められる。
- ・問題に対する実験結果から考察する力の向上。

2 理科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・理科に関する基本的な知識の積み上げ。	・資料を読み取って分かったことを自分の生活に照らし合わせて考えること。 ・自分の考えや調べた結果を相手に伝えること。	・理科に対する主体性の向上。 ・授業の中で学習したことを自分の生活とつなげて考えること。
改善方針	・既習事項を振り返る活動を行う。 ・課題を意識して実験に取り組み、安全性について考え正しい使い方を身に付ける。	・課題提示の段階から、既習の内容や生活経験を基に予想することや、考察することを徹底する。 ・課題発見→予想・仮説→実験（観察）計画→実験（観察）→結果→考察→結論という、毎時間の学習の流れを定着させる。	・単元の導入では課題を発見するために、自由に活動させる時間を設ける。 ・ICTや実物を活用し、映像を見せたり身近な生活と関連付けたりして課題に対する関心を高める。
3年	・一人一人が実験を行うことができるように活動場面を多く設定する。	・自然の事物・現象の差異点や共通点を基に、課題発見させる。	・身近な生活から課題意識をもたせ、他者と関わりながら解決しようとするすることで、主体的に学習に取り組ませる。
4年	・一人一人が実験や観察を行うことができるように、活動場面を多く設定する。 ・タブレットのドリルパークを活用する。 ・興味、関心をもつような問題を投げかける。	・実験や観察を通して、得られた結果を基に考察し、差異点や共通点を見付け、表現するなどして問題解決させる。	・教科書の資料だけではなく、教員がICT教材を工夫して提示する。 ・自分の生活と照らし合わせて考えられるような発問をする。 ・タブレットを活用した学習を行う。
5年	・条件をそろえる、使用する器具、見るポイントなどの実験や観察の正しい方法について毎回丁寧に確認する。	・考察の仕方（実験の目的、結果、結果から言えること）を確認し、考察文の書き方を丁寧に押さえる。	・ICTを活用したり、実物を用意したり、自分たちの経験を想起させたりすることで興味関心を高める。

6年	・実験の条件をそろえる、使用する器具、見るポイントなどの実験や観察の正しい方法について毎回丁寧に確認する。	・課題発見→予想・仮説→実験計画→実験→結果→考察→結論の学習過程を定着させる。 ・仮説を基に実験方法を考えたり、予想と比べながら考察したりすることを通して、自分の考えを表現することができるようにする。	・ICT 機器を活用したり、実物を観察させたりして、自身の生活経験と結び付けて考えられるようにする。
----	---	--	--

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校生活科）

1 生活科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○課題

- ・感じたこと、気付いたことを言葉で表現する機会を増やしていく。
- ・自然が少ない環境の中で、地域の自然を活用する機会を増やしていく必要がある。

○成果

- ・一人一人に朝顔やミニトマトの鉢を持たせて関わらせることで、植物の生長の変化を楽しみ、観察の視点を見付けることができた。
- ・植物を育てることで、植物への愛着をもたせることができた。
- ・学校探検を行い、学校に関心をもつことができた。
- ・季節ごとの遊びに感心をもち、楽しく遊ぶことができた。
- ・1年生に学校を案内する学校探検を通して、学校をより知ったり、1年生の世話をしたりして、上級生としての自分の役割に気付くことができた。
- ・町探検の学習を通して、自分の生活している町に関心をもち、町の人々や様々な場所に親しみや愛着をもつことができた。
- ・町探検の際に、保護者に付き添いをお願いして、安全に行うことができた。

2 生活科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・深い気付きにつながる学びの場面を増やしていく。	・何を見てどう表現していいかわからない児童がいる。 ・感じたこと、気付いたことを言葉で表現する機会を増やしていく。	・学校に自然が少ない。 ・季節を感じる事が難しい。 ・自然が少ない環境の中で、地域の自然を活用する機会を増やしていく必要がある。
改善方針	・学校だけではなく、地域の人材や自然を活用する。 ・友達との交流を取り入れていく。	・見る視点をはっきりさせる。 ・表現の仕方を共有していく。	・地域の公園や育てている植物を活用する。
改善策1年	・地域や学校の職員との交流を多くもつことで、より深く具体的な気付きにつながるようにする。	・観察する際、見る視点を定めたり具体的にどのように表現したりしたらよいかを示していく。 ・他教科との連携をとり、繰り返し行う。	・毎日継続して植物の世話をを行うことで、成長の変化に関心をもたせる。

2年	・野菜が変化し成長していることや、日常生活の中で発見したことを紹介・発表する機会を設ける	・植物に心を寄せ、よりよい成長を願い、世話の仕方を考えたり工夫したり、町探検で気付いたことを自分なりの方法で表現したりして、それらを見て学ぶ機会をさらに増やす。	・生命のあるものとして継続的に世話をしようとしたり、町の人々や様々な場所に親しみをもって関わったりして、自分の経験を伝え合う機会をもたせる。
----	--	--	--

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校音楽科）

1 音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・技能については、歌では簡単な発声練習や階名唱、曲に親しみながら楽しく歌う活動を毎時間繰り返し、返すことを積み重ねている。リコーダーは、リコーダーに親しみ楽しみながら、一音一音を習い、簡単なリコーダーの曲に触れながら演奏する意欲を高めることができた。
- ・思考・判断については、音楽の要素や用語を知ること、表現の手段を考えたり選んだりできる児童が増えた。
- ・鑑賞については、楽曲を特徴付ける音楽の要素や旋律の特徴を説明し、児童が自らの言葉で表現する形をとった。語彙に課題がある児童も、自分の感じた思いに近い言葉を書くことができた。
- ・音楽表現の意欲を高めるために、低学年では身体表現やリズム遊びを多く採り入れ、また、鍵盤ハーモニカは繰り返し練習をすることで基本となる奏法を身に付けることで楽しんで表現する児童が増えた。中・高学年では歌唱や楽器演奏の基礎的な技法の指導を積み重ねたことで、積極的に音楽表現をしようとする児童が増えた。

○課題

- ・器楽の学習において、どんな表現をしたいか思いや意図をもたせながら、個別の課題に応じた指導を行っていく。
- ・鑑賞の学習において、曲の感じを身体表現で表し、感じたことや聴き取った旋律の特徴や音楽の要素を言葉で表現したり説明できたりすること。

2 音楽における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・歌唱は、低学年の元気に楽しく歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなってくる。 ・器楽では鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童は減少した。いずれも個人差が大きく、つまづいてしまうと追いつくのが難しい。また、打楽器等の奏法や拍感を正しくもてない児童がいる。 ・音楽の要素や曲想を表す用語や読譜が定着せず、鑑賞の視点をもてない。	・学年が上がるにつれて、読譜や技能、拍感やリズム感の習得の困難さや語彙の少なさから、自分なりの表現方法を工夫することが難しい児童が増えてくる。 ・音楽を聴いて曲想を感じることはできるが、音楽の要素や曲想を言葉で表現することが難しい。	・低学年では楽しもうとする気持ちが高ぶると乱暴な歌い方になったり楽器の奏法が雑になったりしがちである。また、高学年になるほど、多人数での合奏や合唱では音楽表現をするが、一人では音楽表現を恥ずかしがる傾向がある児童がいる。
改善方針	・歌唱・器楽ともに基本的な奏法や読譜を繰り返し練習する。また、ICTを活用し、楽譜や音源をわかりやすく提示したり、個別指導を行ったりすることで技能の向上を図るようにする。 ・音楽の要素や曲想を表す言葉や用語を覚えさせ、読譜の力をつける。	・楽曲にふさわしい音楽表現をするためにどうしたいか、どのような奏法を使うかなど、考えたことを伝えられるように身体表現の方法や語彙を増やす。 ・音楽を聴いて感じたことや気付いたことを身体表現や音楽の要素をもとにした言葉で表現できるようにする。	・音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするための意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高める。
改善策1年	・声も楽器であることを根気強く指導し、歌唱や鍵盤ハーモニカの演奏は、拍を考えて反復練習を積み重ねるようにする。 ・打楽器の奏法は、範奏を見せたり、リズムや拍を打つ様子を互いに見せ合ったりする。 ・階名唱など、簡単な楽譜を読むことを繰り返し練習させる。	・どんな表現をしたいか考え、身体全体で表現する、のびのびと自分の考えを発表するなど、交流する場を設定する。 ・鑑賞の視点を事前に確認してから、音楽を聴いて感じたことを、身体表現をしたり、低学年の言葉と音楽の言葉で結びつけて表したりする活動をする。	・歌や演奏を聴き合ったり認め合ったりする機会を多く設け、進んで学習に参加できたり、できるようになった達成感を認めたりすることで、楽しんで学習に取り組むことができるようにする。

2年	- 音程を意識して階名唱をしたり、鍵盤ハーモニカの演奏を繰り返し指導したりして、技能の習熟を図る。 - 打楽器の基本的な奏法の習得を通して、拍感を身に付けさせる。 - 階名唱を繰り返し行い、簡単な楽譜を読むことと合わせて、音楽の要素や曲想を表す単語を意図的に提示する。	- どんな表現をしたいか考え、身体表現をしたり、のびのびと自分の考えたことを表現したり、友達のまねをしたりする機会を与える。 - 鑑賞の視点を事前に確認してから、音楽を聴いて感じたことを、身体表現をしたり、低学年の言葉と音楽の言葉で結びつけて表現したりする活動をする。	友達の歌や演奏を自分のものと聴き合い、認め合う機会を多く設け、音楽表現の楽しさを感じさせることで意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
3年	- 歌唱は自然で伸びやかな声で歌うための体の使い方を身に付けさせる。リコーダーはタンギングや基本的な指遣いを繰り返し指導し、必要に応じて個別指導も行う。各楽器の音の特徴を理解し、奏法を身に付けさせる。 - 階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。	- 範唱や範奏や楽譜から楽曲の特徴を感じ取り、自分でどう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて考えられるような選曲や楽譜の提示をする。 - 音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるように、ワークシートや教室掲示の工夫をする。	階名唱や視唱、リコーダーの演奏や読譜を繰り返し練習させ、特にリコーダーは個別指導をすることでやればできるという意欲と自信がもてるようにする。
4年	- 歌唱は発声や発音に気を付けて伸びやかな声で歌えるように体の使い方を指導する。リコーダーは基本的な奏法やサミングが使われる音域の運指の指導を繰り返し行う。合奏を通して様々な楽器の奏法を身に付けさせ、音楽の種類ごとのリズムや拍の取り方の違いを感じさせる。 - 階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。	- 楽曲の特徴を感じ取り、どう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて、友達と意見を交換する活動を多くとり入れる。 - 音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるように、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。	互いに練習の成果を聴き合ったり、教え合ったりすることで、友達と積極的に関わる時間を設け、音楽表現をする事への意欲と自信をもたせるようにする。
5年	発声や発音の基礎練習を行い、体の使い方を体得させるようにする。楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。	範唱や範奏や読譜から音楽の特徴を音楽の要素と関連させて感じ取り、自分の表現に生かすために楽譜への書き込みやグループでの意見交換を多くとり入れる。	個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組みせ、できることを増やすことで音楽表現への意欲や関心を高める。
	階名唱や読譜を通して音楽の要素や楽曲の特徴や曲想を表す言葉を繰り返し指導する。	音楽を、曲想の変化や特徴を音楽の要素と関連させて聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。	
6年	- 発声や発音の基礎練習を行い、頭声発声のための体の使い方を体得させるようにする。楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。 - 階名唱や読譜を通して音楽の要素や楽曲の特徴や曲想を表す言葉を繰り返し指導する。	- 範唱や範奏や読譜から音楽の特徴や物語性を音楽の要素と関連させて感受し、自分でどう表現するか考えるために、楽譜への書き込みやグループでの意見交換や発表を多く採り入れる。 - 曲想の変化や特徴を音楽の要素や学習したり、生活の中で聴いたりした音楽と関連させながら聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。	個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組みせ、楽曲を仕上げることで達成感をもたせ、音楽表現への意欲や関心を高める。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校図画工作科）

1 図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・用具や材料の適切な扱い方や、参考作品を大型スクリーンに拡大して見せ、指導をすることで、すすんで表現を工夫する児童が増えた。
- ・板書では、活動の流れと学習のめあてを明確に掲示し、児童が見通しをもって活動に取り組むことができた。

○課題

- ・主体的に学習に取り組み、意欲的に取り組むことが難しい児童がいる。
- ・絵の具の混色などの技能面では定着が見られるが、何を描くか考え発想することが難しい児童がいる。

2 図画工作科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・対象や事象を捉える造形的な視点が、学年相応に育っていない児童がいる。 ・材料や用具の使い方について、定着に個人差があり、創造的な表現までは結びつかない児童がいる。	・対象の形や色の感じなどから造形的なイメージをもち、そのよさや美しさ、表したいことや表し方などを考え、発想や構想をすることが難しい児童がいる。 ・鑑賞した作品などから、そのよさを感じ取り、自分の見方を広げたり深めたりすることが難しい児童がいる。	・つくりだすことに楽しさを感じ、進んで意欲的に表現したり鑑賞したりする活動が、なかなかできない児童がいる。 ・表現に難しさを感じた際に、投げ出してしまう児童がいる。
改善方針	・各題材で扱う用具や技法を指導し、繰り返し確認することで、表現活動を通して技能の定着を図る。 ・表現活動を通して、形や色の特徴を理解する造形的な視点を育て、用具や材料の使い方を工夫し、自分らしく創造的に表現できるようにする。	・いろいろな材料や素材を触ったり試したりする機会を増やし、材料や用具、表現方法を考慮することで、どのように主題を表すか考える力を養う。 ・題材に合わせて幅広い作品の鑑賞を行い、自分の見方や感じ方を深め、新しい見方や感じ方をつくりだすことができるようにする。	・材料や素材の見せ方やそれらを与えるタイミングなどを考慮し、児童が興味・関心をもち、活動や作品のイメージがしやすいように工夫する。 ・鑑賞の時間を、授業の中に適宜設定し、自己の表現活動の参考にし、より良い表現をする意欲が高まるように指導する。
改善策1年	・材料を使ってつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付くようにする。 ・はさみ、のり、絵の具等の道具は、使い方を確認しながら、繰り返し使っていくことで定着させる。	・すすんで表したいことを見付けられるよう、材料を選択できるようにする。 ・友達と作品を見合うことで、自分の見方や表し方を広げられるようにする。	・表したいことについて話したり説明したりする交流の時間を取り、自分のイメージを主体的に表現させる。 ・友達と作品を見合うことで、よいところを自分の作品に生かせる時間を取り入れていく。

2年	・材料を使ってつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付くようにする。 ・ボンドやのりを使った素材の接着や、絵の具に混ぜる水の調節を繰り返し確認し、使い方を定着させる。	・材料と関わる時間を十分に設けて、児童が自分のイメージをもちながら思い付いた表現を試すことができる場を設定する。 ・鑑賞の時間を通して、自他の作品に関心をもち、お互いの感じ方や考えのよさを認め合い、自分の見方や感じ方に活用するようにする。	・児童にとって身近なテーマや材料を取り上げ、主体的に表現できるようにする。 ・それぞれの表現のよさを全体で共有することで、つくりだす喜びを味わいながら取り組むことができるようにする。
3年	・絵の具や用具の基本的な扱い方を定着させる。 ・様々な太さの筆や、クレヨンなどの用具を必要に応じて使用することで、表現の幅が広がるようにする。 ・金づちなどの用具を定着させ、用具の適切な扱いに慣れるように指導する。	・教師が実践し、いろいろな材料や素材を、触ったり試したりさせることで、作品のイメージへと結び付けられるようにする。 ・材料の表し方を試す時間を設定し、表しながら自分の表現の思いを膨らませられるようにする。	・材料や素材の提示の仕方やそれらを与えるタイミングなどを考慮し、児童が興味・関心をもち活動できるようにする。 ・授業の中で、参考作品や友達の作品を鑑賞する活動を設け、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方を見つけ、自分の表現活動の参考にし、表現の意欲の向上に役立つようにする。
4年	・絵の具や用具の基本的な扱い方を定着させ、モダンテクニックなどの技法を指導し、絵の具を使った表現の幅を広げる。 ・スポンジや網、ブラシ、刷毛などの用具を、自分の表現したいことに合わせて工夫して表現できるように指導する。 ・のこぎり、金づち、彫刻刀、カッターなどの用具の適切な扱いに慣れるように指導する。	・絵の具のモダンテクニックを使い、自分のイメージに合った表現を見つけれられるようにする。 ・大型スクリーンを使っての実例指導や板書を活用して、視覚的に分かりやすい授業を展開し、例を組み合わせたり変化させたりすることで、発想や構想が広げられるようにする。	・材料や素材の提示の仕方やそれらを与えるタイミングなどを考慮し、児童が興味・関心をもち活動できるようにする。 ・授業の中で、参考作品や友達の作品を鑑賞する活動を設け、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方を見つけ、自分の表現活動の参考にし、表現の意欲の向上に役立つようにする。
5年	・絵の具や用具の基本的な扱い方を定着させる。また、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解して表現できるような題材を設定する。 ・ペンチ、電動糸のこぎりなどの用具の適切な扱い方を指導し、児童が自分らしい創造的な表現ができるようにする。	・パステルや絵の具を重ねる絵の題材を通して、つくりながら発想を広げる姿勢を養わせる。 ・アルミ線を使った立体の題材を通して、形を変化させながら自分の表したいイメージをもつ力を養わせる。 ・大型スクリーンを使って、実例指導を見せ、板書を活用して視覚的に分かりやすい授業を展開し、自分の表現の見通しがもてるようにする。	・作りながら考える題材を設定し、段階的な表現の流れを例示することで、児童が自分のイメージをもち、意欲的に表現をすることができるようにする。 ・友達の作品や参考作品などを鑑賞する時間を設け、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などから興味・関心を喚起し、表現の意欲が高まり持続する指導に取り組む。

6年	・絵の具や用具の基本的な扱い方を定着させる。 ・動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさを工夫できるように、作品を言葉で捉える機会を設ける。 ・彫刻刀の使い方を確認し、のこぎり、電動糸のこぎりなどの用具の適切な扱い方を指導し、児童が自分らしい創造的な表現ができるようにする。	・ワークシートを活用し、児童がイメージを広げ、自分の発想や構想をしたことを整理し、自分の表したいテーマを見つめられるようにする。 ・大型スクリーンを使って、表現の展開や参考作品などを見せ、板書を活用して視覚的に分かりやすい授業を展開し、自分の表現の見通しがもてるようにする。	・表現のテーマや、めあてを明確にするとともに、題材で身に付けたい力や活動の面白さを分かりやすく指導することで、主体的に活動ができるようにする。 ・友達の作品や参考作品などを鑑賞する時間や、児童が自ら鑑賞の対象を選択する機会を設け、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などから興味・関心を喚起し、表現の意欲が高まり持続する指導に取り組む。
----	---	--	---

1 家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・学びをその場で終わるだけでなく、次学期（長期休み）に繰り返し復習を行うことで技術が定着する児童が増えた。
- ・ICT 動画等を活用しながら説明を行うことで授業の効率化を一部図ることができた。

○課題

- ・家庭科で学んだ知識を実際に家庭生活に生かしたり、これからの自分の成長について展望したりできるようにする。

2 家庭科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・生活上の課題を解決するための知識が十分とは言えない。 ・説明書を読み解く力をつける必要がある。	・食べるための調理の計画や調理の仕方・生活を豊かにする布を用いた制作の計画や製作について等、問題を見出して課題を設定、考えたことを表現する力が十分とは言えない。	・実習や体験学習には互いに協力して取り組むが、家庭生活への関心を高め、生活に活かしていこうという意欲は十分ではないため、家庭への啓発と共に、生かす方法を指導していく。
改善方針	・確実に知識・理解を定着させるために、既習の単元の知識・理解と関連付けながら学習を進める。 ・日々の授業において手助けするだけでなく、自ら考えられるような声がけを増やしていく。	・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連付けて、家庭生活中で活用できるように自分の生活に目を向けさせる。	・家庭で取り組む課題を与えて、家庭での協力を得ながらできる事が増えていることに気付かせ、生活で実践しようとする意欲をもたせるようにする。
5年	・ICT や動画等を活用しながら説明を細かく行うが、自ら考える授業展開を心がける。また、調理道具など、名称を覚えるだけでなく、安全で衛生的な取り扱い方なども考えるなど、学習での内容を関連付けながら覚えられるよう指導する。	・調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、判断し表現できるような発表し合う場を設ける。	・授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませる。

6年	・ ICT を活用し、動画や学習ソフトを使用して5年時の栄養素の学習と関連付け、食品の分類を再確認しながら献立の工夫などの単元の学習を進める等、発展の前に復習を取り入れるなどする。	・ 調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、発表することができるような場の設定と十分取り組むことのできる授業内容を取り入れる。	・ 授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませ、家庭での取り組みを共有する場を設ける。
----	--	---	--

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校体育科）

1 体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・学習カードや掲示物、動画等を用いたことで、授業のポイントや自分に必要な課題を理解し、自分のめあてに向かって運動する児童が増えた。
- ・デジタル学習カードを活用したことにより、自分の手元で画面が見られるので児童間の意見の共有がやりやすくなり、共に協働して学び合う姿や課題解決に向けて自ら学ぶ姿が見られた。

○課題

- ・学年に応じた、技能を身に付けていくこと。
- ・運動量の確保について。1学期末に校庭ができたため改善されていく部分もあるが、1時間の授業の構成も工夫を継続していく必要がある。
- ・ポイントを意識し、自分のめあてを考える児童の育成。

2 体育科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・運動の技能差が大きい。 ・健康で安全な生活について学習した知識を、自分たちの生活に生かすことができない児童がいる。	・運動の動き方やポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶことができていない。	・勝敗を受け入れたり、お互いを認め合ったりする態度を身に付けさせる必要がある。
改善方針	・休み時間には積極的に外遊びや体育館遊びをするよう学校全体で取り組んでいく。また、スモールステップで指導していく。 ・自分たちの生活について振り返らせ、身近なことを用いて自分事として捉えさせる。	・友達と見合ったり、教師が声をかけたりして、ICTを活用したりして、よい動きや運動のポイントについて理解させる。	・望ましい態度の児童を称賛し、クラス全体でも共有していく。また、安全面については怪我につながる恐れがあるので、厳しく指導する。
改善策1年	・教師が説明する時間を極力減らして、運動量を確保する。 ・腕支持や逆さ感覚など身体の感覚を身に付ける準備運動や活動を取り入れる。	・友達と動きを見合う場面を作り、よい動きを見付けられるようにする。 ・運動遊びにおいて、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を提示して選ばせる。	・児童がやってみたいと思えるような運動遊びを提示する。 ・安全に楽しく運動するためのルールを最初に提示し、ルールを守れている児童を褒める。
2年	・基礎となる動きの活動は、毎時間確保することで、技能の定着につなげる。	・全体やグループ内で、友達の演技から学ぶ機会を設ける。 ・作戦タイムなどを通して、話し合い、考える場を設ける。	・学習後に「楽しかった、またやりたい」と思えるような授業展開の工夫をする。

3年	・学習カードや掲示物などを活用し、児童それぞれが自分に合っためあてをもてるようにするとともに技能向上のためのポイントを理解させる。	・友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりすることができるようにする。	・スモールステップを踏んだ学習活動にする。苦手な児童が少し頑張ればできそうだという気持ちをもてるように授業を組み立てる。
4年	・学習カードや掲示物などを活用し、自分にあっためあてをもつとともに技能向上のためのポイントを理解させる。	・友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりすることができるようにする。	・スモールステップで誰でも取り組みやすい運動から取り組みさせる。
5年	・事前に「できるポイント」「できないポイント」を動画や手本で見せることで、具体的に理解できるようにする。	・体育ノートで振り返りをさせる。ポイントをどのように意識してやってみてどうだったかを具体的に書かせることで、自己解決へつなげる。	・安全に楽しく運動できるよう場の設定をしたりルールを工夫したりする。
6年	・技能が高い児童を手本として見せたり、動画を見せたりすることで視覚的にイメージをもたせる。 ・主運動につながる感覚づくりの運動を多く取り入れる。 ・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。	・学習カードを活用し、運動で工夫したところ、次回頑張りたいことなどを振り返らせる。 ・タブレットを活用して運動のポイントを示したり学び合いをしたすることで、課題を解決できるようにする。	・単元の最初にオリエンテーションを行い、めあて、学習の流れ、安全面の配慮についての指導を行う。見通しをもたせて学習させる。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校教育外国語）

1 外国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・大田区学習効果測定では、「聞くこと」の問題で校内平均正答率（73.2）が目標値（73.0）を上回った。日頃の授業で聞く活動を積極的に取り入れ、ALT や ICT を活用しながらネイティブの発音を聞いている成果だと考える。
- ・身近で簡単な単語（色、食べ物、数字、曜日、施設など）について理解している。
- ・身近な話題の日常会話を聞いて内容を理解している。（誕生日、好きな教科、好きなスポーツ、できごと・できないことなど）
- ・外国語（英語）を用いて、他者と関わろうとする意欲的な姿が見られた。
- ・間違いを恐れずに、チャレンジして語彙習得を目指そうとする姿が見られた。

○課題

- ・アルファベットの読み書きを定着させる。
- ・学習した単語を使って英語で文を作る機会を設ける。
- ・外国語（英語）を学ぶことが楽しいと感じる児童を増やしていくことが必要である。
- ・人前で英語を話す機会を増やしていくことが求められる。

2 外国語科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・アルファベットの読み書きが定着していない。 ・学習した単語を使って英語で文を作ることが難しい。	・どのような表現を用いれば相手に伝わるか、考えながら話すことはできていない。	・外国語（英語）に対する抵抗感があり、人前で英語を話すことが難しい児童がいる。
改善方針	・繰り返し復習することで、アルファベットを定着させる。 ・混在しやすい文字があったり、日本語にはない音があったりするため、アルファベットの音に慣れさせる。 ・学習した表現や単語を使った文を繰り返し書かせる。	・様々な表現の方法や話型を提示しながら、どの表現を使うか児童に選択させる。	・必要性のある会話を用いて、どの児童にもコミュニケーションの楽しさを味わわせる。 ・ICT を活用しながらネイティブの発音を聞き、自分の思いや考えを英語で表現させる。

5 年	・ ABC の歌を聞き、A～Z までの音を覚えさせたり、文字の形を見せたりする。特に、F、L、M、N、R、V は日本語と音が異なるため集中的に慣れさせる。 ・ 4 線の上にアルファベットが書けるように繰り返し指導する。 ・ 学習した表現や単語を使った文を、手本を見ながら書き写させる。	・ 話型や関連する単語を提示し、どの表現を使えばいいのか児童が選択できるようにする。	・ ゲームや音楽を使いながら楽しく英語に親しむことができるようにする。
6 年	・ 繰り返し発音させたり、書いたりすることで、アルファベットの読み書きができるようにする。 ・ 学習した表現や単語を使った文を、手本を見ながら書き写させる。 ・ 自分が使いたい言葉を選択して、学習した表現に当てはめて作文させる。	・ 様々な表現方法や話型を提示しながら、どの表現を使うか児童に考えさせる。 ・ ICT を活用しながらネイティブの発音を聞き、自分の思いや考えを英語で書いたり、話したりすることができるようにする。	・ 必要性のある会話の内容を考えさせ、どの児童にもコミュニケーションの楽しさを味わわせる。